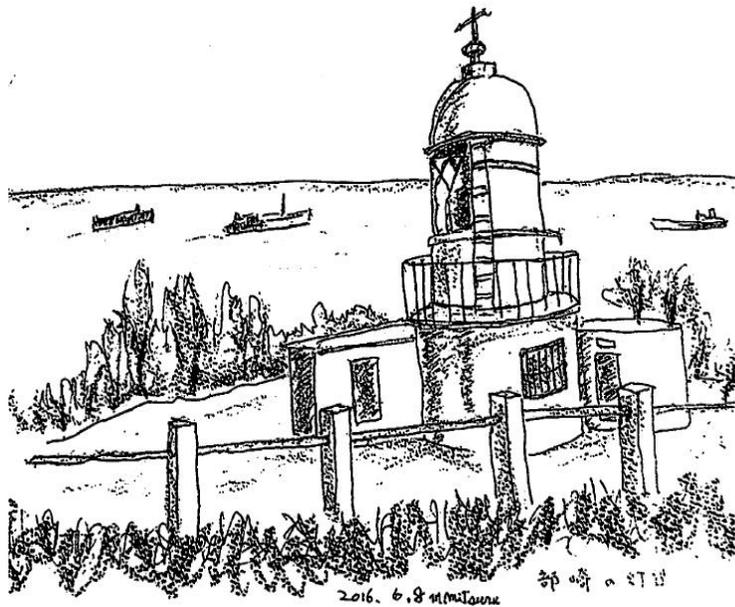


週報2022年6月19日



2022年教会標語聖句

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

イザヤ書60章1節

シオン教会信仰指標～人生が変わる！御言葉の光に照らされて～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年6月19日

ピアノ：赤松姉 オルガン：力丸勝子師

司会：石田兄 献身の祈り：大谷兄 メッセージ：力丸嗣夫師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 420「雨を降り注ぎ」	
祈 禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*	
特別賛美	讚美歌 198「God Bless You」(有志)	
献身の祈り		大谷 兄
賛 美	新聖歌 456「真実のため十字架の」	
賛 美	コーラス4A「ビジョン」	
聖書朗読	ガラテヤ人への手紙 4章 19・5章1節	
説 教	「キリストが形造られるまで」	力丸嗣夫 師
祈 禱	恵の感謝と応答の祈り	
頌 栄	「主の祈り」	
祈 禱		力丸嗣夫 師

交わりの三省

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈り合っていますか

“キリストが形造られるまで”

ガラテヤ人への手紙 4 章 19 節・5 章 1 節

(4:19)～私の子供たちよ、あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために生みの苦しみをしています。

(5:1)～キリストは自由を得させるために、わたしたちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、二度と奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。

(少し物語させてください。)

今は紛失していないが、随分読まれてよれよれになった薄い単行本の自叙伝を、どなたから頂いて、むさぼるように読み、感動して繰り返し繰り返し読んだ一冊の本が忘れられない。それは、“キリストの形が成るまで”

1899 年(明治 33 年)長門市俵山に生まれ、若い時下関で育った、一人の牧師さんの物語です。ヤマザキパンの創業者の奉獻した、壮麗な会堂(池の上教会)創設者の、故山根可弑先生の自叙伝です。

波乱に富んだその生涯は、正に、一人の人の人生の中に、“キリストの形が成るまで”と言う、冒頭の聖書テキスト(ガラテヤ人への手紙 4 章 19 節)そのものだと、感動したのです。

今日のご当人の山根可弑氏が、熱心なクリスチャンの御夫人と結婚された時の事を皆さんにご紹介しようと考えました。

警視庁勤務だった山根氏は、最初のご結婚から 10 年目に、二人のお子様遺して、奥様が病死されて、悲嘆に暮れていた時に、上司のお世話で、熱心なクリスチャンを紹介され、再婚された時の事です。

奥様となられた“恵代夫人”は、最初相手(山根氏)がクリスチャンでない事で、お断りしようと思っていました(教会の婦人たちの指導者として奉仕し、裁縫教室をもって弟子たちに聖書の集會も開いていた)が、未だ、昭和の初期で封建的な時代で、お世話に対して抗する事も出来ず、結婚された

(1)

のです。そして、結婚式後に言い渡されたのは、…今後一切キリスト教と関係することを禁ずる。*教会に行な *牧師信徒の訪問を禁ずる *聖書・讃美歌は今夜風呂焚きで焼却する事 *キリスト教の読み物一切禁止。まさかそこまで…とは思ってもよらなかったのですが、消え入るような声で、「承知しました」と答えた。それからの毎日は、突然絶たれた交わりから孤立して、ただ一人隠れて涙する毎日だった。でもその中から、…①イエス様を信じるな!とは言われなかった。②祈ることは禁じられなかった。… 恵代夫人は、全てを失ったのではなく、一番大切な主イエス様とのつながりは残されていた。また、厳命が下されて、「ハイ!」と答えたのは、信仰を辞める事ではなく、枝葉の事だと気付いて、心から感謝が溢れて、涙し祈って出発したのです。

次の日から、聖書もなく、毎週礼拝ごとに魂の更新を受けていたこと、あれほど多くの姉妹たちと交わり、また、裁縫教室の生徒たちに福音を語る事も出来なくなった。教会の牧師信徒の声も、聴けなくなった。毎日びくびくして、主人に仕えなければならなくなったのに、彼女の心には、イエス様が今までの信仰生活以上に、身近に感じられるようになった。すると、感謝と喜びが湧いてきて、全ての時間が、イエス様との交わりの時となり、一日生活しながら祈り、長い信仰生活の中で覚えた聖書のお言葉、特にイエス様のお言葉を繰り返し繰り返し、思い起こしては暗唱してまた祈り、ご主人が勤めから帰って来た時には、心満たされた笑顔で、ご主人に仕えることが出来た。御主人のお子様には、事あるごとに、“ある偉いお方(イエス様)のお話”をしては、この様な人になるのですよと。

またご近所のお付き合いでは、主婦同士の立ち話の交わりの中で、イエス様のお話をし、福音を語り、お話を聞いてあげる…その様な日々でした。奥様同士の会話や交わりには、ご主人がたは気にも留めないのも、解放感があったのです。

ある時、「お父さん、お隣の…さんが、教会に行ってみたい…と言ってい

(2)

なのですが、今度の日曜日、ご案内したのですが、いいでしょうか？」山根氏は、そのころには、すっかり恵代夫人が、輝いており、従順だし幸せ感を持っていたので、「ああ、いいよ。お連れしてあげなさい。」「ありがとうございます。」「次の日曜の前は、ご主人の方から、「お隣さん、まだ慣れないかもしれないから一緒に行ってあげなさい。」…こうしていつの間にか、毎週礼拝に自然に出かけられるようになった。

或る日のこと、「一度おれも連れて行ってくれ！」踊り上がりばかりの喜びを抑えながら、「うれしいです！喜んで一緒にしましょう。」こうして、お隣さんとも連れ合っ、て、礼拝に出席するようになったのです。何と教会と一切の関係を絶たれてから3年経過していました。間もなく、ご主人も深い感動の中で洗礼を受けて、クリスチャンとなり、その頃には、事業を始めていたのですが、やがて、献身して伝道者となりました。

東京目黒で開拓伝道をはじめ、事業をたたんで全てを清算した僅かな資金での出発は、一家にとって、非常に厳しい船出でした。しかし、恵代夫人の、イエス様に信頼する祈りと、山根氏の奥様を通して学んできた神への絶対の信仰で、幾多の苦難を乗り越えて、今は、“ヤマザキパン”の二代目飯島氏の森の中の邸宅の道路沿いに、パイプオルガンを備えて、教会（現在礼拝出席者数百人）を築き上げたのです。

これは単に成功話ではなく、その土台には、奥様恵代夫人の、イエス様への篤い信仰と忍耐と希望に生きた孤独な日々の積み重ねがあつての、めぐみなのです。

このお話を読まれる方は、クリスチャンばかりではない事を心に留めながら、イエス・キリスト様を信じる信仰の人生とは、ご利益以上の祝福と人間本来の魂の平安と祝福が、どの様に栄光の生涯に導かれるかを、この中から、感じ取っていただけたら…と、祈る者です。

(3)

(終わりに)

前にもお伝えしたことですが、私の父が朝鮮の平壤(今の北朝鮮)で、始めて教会に行ったとき、イエス様に出会い、魂の救いと平安を頂いた時、心に思った一句を最初の聖書に書いた言葉をご紹介します。

『終生悲嘆に暮るるも 一度 聖顔(イエス様の御顔)を拝せば足れり』

これは父の生涯の信仰の姿勢でした。その中で私は育ち、今日あるのを、深く感謝し誇りに思っています。

『あなたがたのうちにキリストが形造られるまで…』

『キリストは自由を得させるために、私たちを開放して下さい。…』

※**キリストの像(形)とは…**イエス様は、完全な人として、この世の生活を送られた。それは、“それは神の御子イエス様だから…”と、特別視できない閉塞された姿なのです。そのイエス様のお姿は、

- ①常に父なる神を求め・見上げ、事あるごとに祈りという場を通して、父と交流されていた。朝早く・夜を徹して・弟子たちを残してお一人で…
- ②父なる神の視点(祈りの中で身に付けられた)で、全ての人と交わられた。
*病める人々・虐げられている人・異邦人・敵対して来るユダヤ教徒たち
- ③反対する人々社会に敵対せず、敢然と真理に立って生き語り続けた。
- ④愛と柔和の人として、悼んでいる人を捜し求めて、手を差し伸べられた。
- ⑤弟子達も、同じようにして、その生涯を歩み通して、今日の全世界の教会の基礎を築いた。

※『二度と奴隷のくびきを負わせられない様に』…奴隷のくびき…とは？

- ①律法主義(規則づくめの信仰)～恵みを失い、自己義を打ち立てる
- ②十字架を軽視し、自由な意思と解釈で、神の義と真理とを引き下げる
- ③礼拝・奉仕・目に見える形での熱心・競争心的熱心さで、自己確認
- ④その他さまざまな形を変えて、サタンは、イエス様の姿ではなく、あなたの人生を際立たせようと働きかけてくる。

✠あなたを通して今の世に“イエス様”が顕わされますように。✠

(4)